
超ステキな催眠占い。

石山ウルマ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超ステキな催眠占い。

【Nコード】

N89140

【作者名】

石山ウルマ。

【あらすじ】

いつものように彼氏のアキオと居酒屋でお酒を飲んでいた。

超ステキな催眠占い。

そんな看板に引かれて戸口の小さなドアを開けた。

その店は場末の居酒屋の隣にあった。

夜中の11時。

私は、初めはその居酒屋で彼氏のアキオとお酒を飲んでいた。いつものように和気藹々と飲み始め、いつものようにムキになり喧嘩になった。

「死ね、この能無しのどエロ」これもいつもの私の捨て台詞。

自分が飲み食いした金額をざっと暗算して、それよりも少し少なめのお金をテーブルに叩き付けて店を出た。

携帯で時間を確かめた、それが11時だった。

『超ステキな催眠占い・・・20000円から』
20000円か、高いな。

不思議なことにそう思いながらも、その店の安物の取っ手ノブを引いた。

ドアを開けると真四角で真っ白な小さなテーブルと、その椅子に腰仕掛けている初老の男が、ドアからわずか1mも離れていないところに見えた。

「座って」

男の何の挨拶もないままに、私は背もたれのない椅子に腰を下ろした。

「では、さっそく」

こんなお店に来た事は一度もない、何処でもこんな一方的な流れな

のか。解らない。

腰掛けての束の間、男は五円玉に糸を通したものを私の目の前にぶら下げた。

「これを良く見なさい」

その男の指から垂直に下がる糸、その先には五円玉が漫然とぶら下がっている。

男は五円玉を揺らし始めて

「心を落ち着けて、この五円玉のゆれを良く見てください、あなたはだんだん眠くなる」

『ばかばかしい』内心そう思った。

「いいですか、あなたは段々と眠りに落ちてゆく、ほーら、ほら。眠くなつてゆく。」

そしてあなたは今やっていることが段々バカバカしくなつてゆく」

「あのう、最初からばかばかしいんですけど」

「いや違います。これは催眠術のお陰です」
信じられない。

「そして段々腹立たしくなつてくる」
当っている。

「帰りたくなる」
また当った。

「当ります、2000円を払いなさい」

「いやです」

「2000円を払えばあなたはさつさと帰れるんですよ」
確かにこんなところに長居はしたくない。

「でも、2000円は高すぎます」

「では1000円におまけします」

「300円にしてください」

「いいでしょう」

私は300円を払うと居酒屋を覗いてみた。
アキオはまださっきの席に座っていた。

「なんだよ、帰ったんじゃないかったのか？」

それが実はと、『超ステキな催眠占い』の話をした。

「で、結局300円払ったのか」

「そうよ、損した」

「そうでもないだろう、お前の支払い、300円足りなかった。これでチャラだ」

私はまたばかしくなつて腹が立って、さっさと帰りたくなった。
占いが当たったのかな？ 解らなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8914o/>

超ステキな催眠占い。

2010年11月13日21時29分発行